

### セッション3

## 男女共同参画の視点から 防災の取組を実践する (集合研修)

- 
- セッション3、「男女共同参画の視点から防災の取組を実践する」を始めます。

## 本セッションの目標と学習内容

### 目標

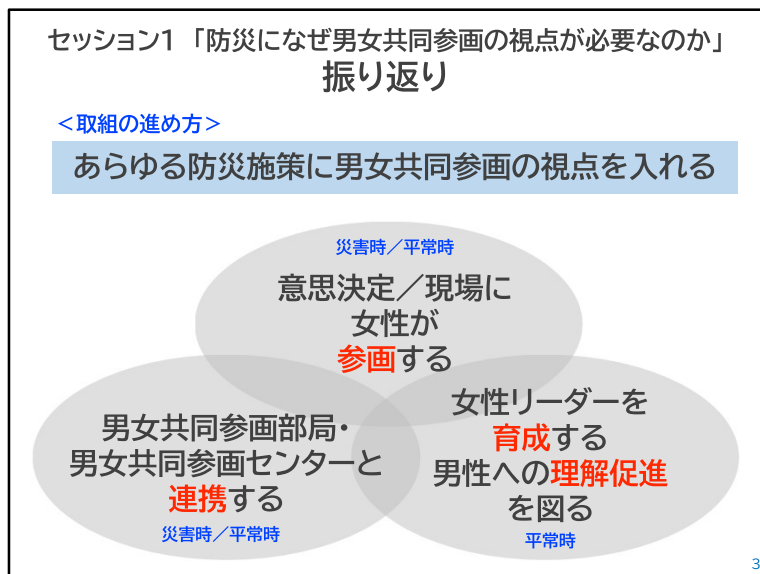
- あなたの部署における具体的な取組を見つけ出す
- ガイドラインを活用して取組を検討する

### 学習内容

- ワーク1 災害発生時の部署の業務から、男女共同参画の視点で検討したい業務を選び、目指したいゴールを設定する
- ワーク2 災害時に具体的に取組むことを検討する
- ワーク3 平常時にしておくことを検討する
- 共有 全体でワークの結果を共有する

2

- 
- 本セッションの目標と学習内容です。
  - 本セッションは、あなたの部署における具体的な取組を見つけ出し、ガイドラインを活用して取組を検討することを目標としています。
  - 学習内容は、
    - ワーク1 災害発生時の部署の業務から男女共同参画の視点に立って検討したい業務を選び、目指したいゴールを設定する
    - ワーク2 災害時に具体的に取組むことを検討する
    - ワーク3 平常時にしておくことを検討する
    - 共有 全体でワークの結果を共有するという流れで進めていきます。



- セッション1の振り返りです。
- セッション1では、災害時に繰り返されている問題を軽減するためには、あらゆる防災施策に「男女共同参画の視点」を入れることが重要であり、
- そのためには、この図で示している3つ、
  - ・ 「意思決定/現場に女性が参画すること」
  - ・ 「男女共同参画部局・男女共同参画センターと連携すること」
  - ・ 「女性リーダーを育成すること、男性への理解促進を図ること」
- に取り組むことが大事であることを学びました。

## 学習の進め方

- セッション1、2で学習したことを基に、自組織の業務にあてはめ、ワークに取り組みながら進めていきます
- ワークは一般的なことではなく、自分が所属する組織をイメージすることが大切です
- 本日のワークで具体的な取組の検討方法を学び、自組織に戻ってから、更に詳細に検討していただくことを目的としています
- ガイドラインを活用して検討を行うため、ガイドラインをご用意ください



4

- このセッション3では、セッション1、2で学習したことを基に、自組織の業務にあてはめ、ワークに取り組みながら進めていきます。
- ワークは一般的なことではなく、自分が所属する組織をイメージすることが大切です。
- 本日のワークで具体的な取組の検討方法を学び、自組織に戻ってから、更に詳細に検討していただくことを目的としています。
- ガイドラインを活用して検討を行います。手元に、「ガイドライン」をご用意してください。

### 自己紹介と役割分担 (5分)

- グループで自己紹介をしましょう
  - ・ 所属
  - ・ 名前
  - ・ あなたのまちの好きなところ
- リーダー、書記、発表者を決めてください

5

- では、ワークを始めるにあたり、自己紹介と役割分担をしましょう。
  - まず、グループで自己紹介をしてください。
    - ・ 所属
    - ・ 名前
    - ・ あなたのまちの好きなところ (※適宜、カスタマイズしてください)をひとりずつお話してください。
  - 全員の自己紹介が終わりましたら、リーダーと書記、発表者を決めてください。
  - リーダーはワークの進行と最後の発表をお願いします。
  - 書記は検討結果を付箋紙に書き出して整理してください。
  - 発表者には、このセッションの最後にグループでの検討結果を発表していただきます。
  - 他の皆さんも協力して進めてください。
  - 5分程度で自己紹介と役割分担をしてください。では、スタートしてください。
- <約5分>
- ✓ 受講者の様子 (はかどり具合) を見て、終了します。
  - 決まりましたでしょうか。
  - では、ワークに進みます。

**【ワーク1】**

**災害発生時の部署の業務から  
検討テーマを選び、  
目指すべきゴールを決めてください**

6

- では、【ワーク1】を始めます。
- 【ワーク1】では、3つのステップで進めていきます。
- まず、災害が起きたときにあなたの部署で行う業務を段階ごとに書き出してください。
- その中から、より具体的に男女共同参画の視点に立って取組を検討したい業務を選び、目指したいゴールを決めていただきます。

<参考>

- ✓ 事前学習として、各自が①-1の「業務の洗い出し」に取り組み、その成果を持って研修に参加してもらうこともできます。
- ✓ 事前学習とすることで、研修時間の短縮につながります。
- ✓ 事前学習にした場合は、①-2のグループ検討から始めます。

## 災害時の自治体の対応業務

- 災害時、自治体は「災害対策本部」を設置し、全ての部署が災害対応業務に当たることになる
- 幹部職員は、「災害対策本部会議」で、災害対応の進捗状況や課題について報告し、今後の方針を決定する

全ての部署が、災害対応の当事者である

<発災時に地方公共団体が実施すべき17の対策項目>

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| ・ 災害対策本部の組織・運営   | ・ 物資等の輸送、供給対策    |
| ・ 通信の確保          | ・ ボランティアとの協働活動   |
| ・ 被災情報の収集        | ・ 公共インフラ被害の応急処置等 |
| ・ 災害情報の伝達        | ・ 建物、宅地等の応急危険度判定 |
| ・ 応援の受入          | ・ 被害認定調査、罹災証明の発行 |
| ・ 広報活動           | ・ 仮設住宅           |
| ・ 救助・救急活動        | ・ 生活再建支援         |
| ・ 避難所等、被災者の生活対策  | ・ 廃棄物処理          |
| ・ 特別な配慮が必要な人への対応 |                  |

出典: <表> 内閣府(防災担当)「地方都市等における地震対応のガイドライン」(平成25年8月)より抜粋

7

- ワークの前に確認です。
- 災害時、自治体は「災害対策本部」を設置し、全ての部署が災害対応業務に当たることになります。
- 幹部職員は、「災害対策本部会議」で、災害対応の進捗状況や課題について報告し、今後の方針を決定します。
- このスライドの下側で示しているのは、内閣府のガイドラインで示している「発災時に地方公共団体が実施すべき17の対策項目」です。
- これを見ても明らかですが、全ての部署が、災害対応の当事者になります。

①-1 災害時の業務「洗い出し」【個人検討】(3分)

災害が起きたときに**あなたの部署(課等)で行う業務**を、段階ごとに黄色の付せん紙に書き出しましょう。

災害対策  
本部の  
設置

- 付箋紙1枚に1業務
- 出来るだけ大きな文字で記入

例) 防災・危機管理担当部局

段階	あなたの部署で行う業務
初動段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害対策本部の設置、体制確立</li> <li>・ 被害情報の収集・集約</li> <li>・ 避難所の開設決定</li> <li>・ 救助</li> <li>・ 行方不明者捜索</li> <li>・ 孤立地区への支援</li> </ul>
避難生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対策実施状況の把握・調整</li> <li>・ 応援要請、受入</li> <li>・ 関係機関との連絡調整</li> <li>・ 個別事案への対応</li> </ul>
復旧・復興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種施設・設備等の復旧状況の把握・調整</li> </ul>

8

- では、【ワーク1】を始めます。
- まず、個人検討です。黄色い付箋紙とペンをメンバーに分けてください。
- 画面にあるように、「初動段階」「避難生活」「復旧・復興」の災害の各段階で、あなたの部署(課等)が行うべき災害対応業務を付箋紙に書き出してください。
- この3つの段階は、ガイドラインに合わせています。
- ここでは、例として、防災・危機管理担当部局の業務の一部を示しています。
- 付箋紙1枚に1つの業務を書いてください。
- グループのメンバーが読みやすいように、出来るだけ大きな文字で記入してください。
- 時間は5分です。では、個人検討を始めてください。

<個人検討 3分>

- ✓ 3分経過したら、次の検討に進めてください。
- ✓ 受講者の書き込み状況を見て、時間を延長したり、短縮したりします。
- 書き出せましたか。
- それでは次に進めましょう。

<参考>

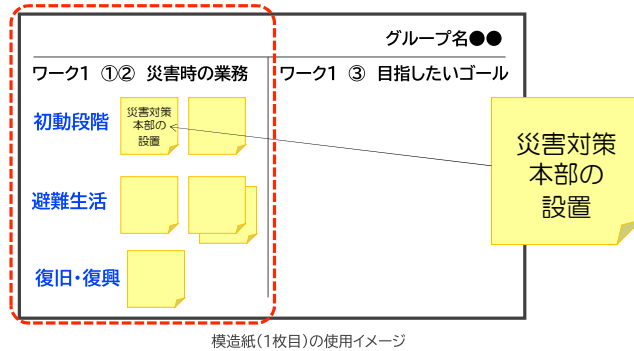
- ✓ 組織の規模や受講者の状況によって、「係レベル」で検討するなど、カスタマイズして実施してください。



①-2 災害時の業務「業務の整理」【グループ検討】(5分)

記入した付箋紙を出し合い、模造紙を使って災害の段階ごとに整理しましょう。

- 同じ意見は重ねて整理



- それでは、ここからはグループ検討です。
- 机の上の模造紙を使って、記入した付箋紙を災害の3つの段階（「初動段階」「避難生活」「復旧・復興」）ごとに整理しましょう。
- 同じ意見は重ねて貼ってください。
- 作業時間は5分です。
- ではリーダー、グループ検討を進めてください。

<グループ検討 5分>

- ✓ 5分経過したら、次の検討に進めてください。
- ✓ グループの進捗状況を見て、時間を延長したり、短縮したりします。
- 整理できましたか。
- それでは次に進めましょう。

②業務の選定【グループ検討】(1分)

①で書き出した業務の中から、より男女共同参画の視点からの取組を検討したい業務を選びましょう。

- ①で書き出した業務の中から1つ選んでください。



模造紙(1枚目)の使用イメージ

例) 教育関係部局

段階	男女共同参画の視点で取組を検討したい業務
避難生活	・被災した児童や生徒の支援

例) まちづくり関係部局

段階	男女共同参画の視点で取組を検討したい業務
復旧・復興段階	・仮設住宅の設計・ニーズ把握

10

- ②業務の選定に進みます。
- 災害時のあらゆる業務において、男女共同参画の視点が必要です。
- 先ほど整理した災害時の業務の中から、より男女共同参画の視点から検討したい災害対応業務を、グループで1つ選んでいただきます。
- 選んだ業務は、右上の図のように赤丸で囲んでください。

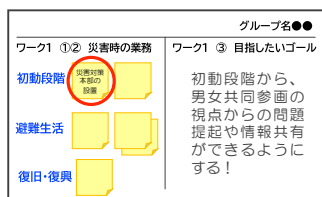
<グループ検討 1分>

- ✓ 1分経過したら、次の検討に進めてください。
- ✓ グループの進捗状況を見て、時間を延長したり、短縮したりします。

- 選定できましたか。
- それでは次に進めましょう。

③目指したいゴール【グループ検討】(5分)

②で選んだ業務について、男女共同参画の視点を入れることで「**目指したいゴール(どういった状態にしたいか)**」を話し合い、結果を模造紙の右側に大きく書き出しましょう。



模造紙(1枚目)の使用イメージ

例) 防災・危機管理担当部局の場合

②で選んだ業務に男女共同参画の視点を入れることで <b>目指したいゴールは</b>	初動段階から、男女共同参画の視点からの問題提起や情報共有ができるようにする
--	---------------------------------------

例) 福祉関係部局の場合

②で選んだ業務に男女共同参画の視点を入れることで <b>目指したいゴールは</b>	避難生活における要配慮者支援で、女性と男性の異なるニーズに対応できるようにする
--	---

11

- 続いて、③目指したいゴールの検討です。
- ②で選んだ業務について、「男女共同参画の視点」を入れることで、どういった状態にしたいか、つまり「目指したいゴール」をグループ内で話し合い、その結果を模造紙の右側に大きく書き出してください。

- 例として、防災・危機管理担当部局と、福祉関係部局の場合を表示しています。
- 例えば、防災・危機管理担当部局の場合であれば、初動段階から、男女共同参画の視点からの問題提起や情報共有ができるようにする
- 福祉関係部局の場合であれば、避難生活における要配慮者支援で、女性と男性の異なるニーズに対応できるようにする といったことが考えられます。

- この「目指したいゴール」を検討する際に、ガイドラインが活用できます。
- では、「ガイドライン」をみてみましょう。

※ここで、次のスライド12と13を見せながらガイドラインについて説明した後、このスライドに戻り、グループ検討を進めてください。

- それでは「ガイドライン」を参考に、「目指したいゴール」についてグループ検討を始めてください。

<グループ検討 5分>

- ✓ 5分経過したら、次の検討に進めてください。
- ✓ グループの進捗状況を見て、時間を延長したり、短縮したりします。

- 目指したいゴールが決まりましたか。
- それでは次に進めましょう。

ガイドラインを活用して  
具体的に取組を検討してみましょう



12

- 
- 内閣府の「ガイドライン」を手元に用意してください。

## ガイドラインの活用方法

### 第1部 基本的な考え方

背景や解説、第2部、第3部との関連箇所が書いてある

課題の背景や骨格となる考え方を確認したい場合は 第1部へ

### 第2部 段階ごとに取り組むべき事項

取り組むべき主体、ポイント、解説、事例が書いてある

具体的な取組のポイントや参考となる事例が知りたい場合は 第2部へ

### 第3部 便利帳

チェックリストや掲示物のフォーマット、参考となる文書が書いてある

現場で使えるツールやお役立ち情報が知りたい場合は 第3部へ

13

- 「ガイドライン」の活用方法についてご紹介します。目次をご覧ください。
- ガイドラインは「第1部 7つの基本方針」「第2部 段階ごとに取り組むべき事項」「第3部 便利帳」の3部構成になっています。
- P.2をご覧ください。
- 第1部には基本的な考え方として、7つの基本方針について、その背景や解説、第2部、第3部との関連箇所が書かれています。
- 課題の背景や骨格となる考え方を確認したい場合は、第1部を参照してください。
- P.11をご覧ください。
- 第2部では、平常時の備え、初動段階、避難生活、復旧・復興の4つの段階に分けて、ページの上部に取り組むべき主体、四角の枠の中に取組ポイント、その下に、解説や事例が書かれています。
- 業務の具体的な取組ポイントや参考事例が知りたい場合は、第2部を参照してください。
- P.56をご覧ください。
- 第3部は便利帳になっており、チェックリストや掲示物のフォーマット、参考となる文書の情報が掲載されています。
- 現場で使えるツールやお役立ち情報が知りたい場合は、第3部を参照してください。

※スライド11に戻って、グループ検討を進めてください。

**【ワーク2】**

**災害時に具体的に取組むことを  
検討しましょう**

14

- 
- ワーク2では、災害時に具体的に取組むことを検討していただきます。

実現するための災害時の取組【グループ検討】(15分)

実現するためには、「だれが」「いつ」「何をどうするか」を、検討します。

検討する中で「気づいたこと」があれば、メモしましょう。

- 工夫・配慮したいこと、連携するといい人や団体、困ること等
- ガイドラインのポイントや事例を参考に考えてみてください

例) 福祉関係部局の場合

その実現のために災害時に取り組むこと			
だれが	いつ	取組内容 (何をどうするか)	気づいたこと
避難所担当者が	避難者受入時に	要配慮者の名簿を作成する	性別、要望欄
避難所運営者が	避難所開設時に	要配慮者の専用スペースを確保する	女性専用スペースが必要?
福祉課が	避難生活期に	本人や家族のニーズを聞き取る	男女両方の職員が聞き取りを行う
介護・介助者が	避難生活期に	避難所での介護・介助を実施する	介護・介助は同性がするべき?

15



















- 【ワーク1】で検討した「目指したいゴール」を実現するための、「災害時の取組」について具体的にグループ内で検討していただきます。
- 皆さんのグループで選定した「災害時の業務」を、目指したいゴールに向けて実現していくためには、「だれが」「いつ」「何をどうするか」について考えます。
- ガイドラインのP.28~P.54にある、取組ポイントや、事例などが参考になります。
- ここでは、福祉関係部局の場合を例にあげています。
- 例えば、避難所担当者が、避難者を受け入れるときに、要配慮者の名簿を作成することが考えられます。
- 検討していく中で、「気づいたこと」があれば、付箋紙にメモしてください。
- ここでは、名簿を作成する際には、性別欄や、要望を書き込む欄があるといいなと気づき、記入しています。
- それ以外にも、どうやってやるのかが分からない、人が確保できるのか? など、実現するために困ることなどがあれば、付箋紙にメモしてください。
- また、「だれが」は自分の組織以外の方が実施することを書いてかまいません。
- 例では、一番下の行のように、「介護・介助者が」やることを記入しています。  
※連携を意識するために必要であるため。

※続けて、次のスライドで、模造紙へのまとめ方を説明してください。

## セッション3 「男女共同参画の視点から防災の取組を実践する」 (集合研修)

- 「目指したいゴール」を実現するための「災害時の取組」を赤色の付箋紙に書き出して、模造紙に整理してください。
- 模造紙を横置きにし、下図のように左半分を使って整理してください。
- 模造紙が足りなくなったら追加してください。
- 検討時間:15分

模造紙(2枚目)の使用イメージ

ワーク2 災害時の取組				ワーク3 平常時の取組	グループ名●●
だれが	いつ	取組内容	気づいたこと		
		 			
					
		 			
			 		

16

- 模造紙の整理方法について説明します。
- 「目指したいゴール」を実現するための「災害時の取組」を赤色の付箋紙に書き出して、模造紙に整理してください。
- 模造紙は横置きにし、図のように左半分を使って、「誰が」「いつ」「何をするか」「気づいたこと」の欄を線を引いて作ってください。
- 付箋紙に書いた検討結果を、取組ごとに横に並べるように貼り、整理してください。
- 模造紙が足りなくなったら、新しい模造紙を追加してください。
- 時間は15分です。スタートしてください。リーダー、お願いします。

<検討 約15分>

- ✓ 受講者の検討の様子(はかどり具合)を見て、検討を終了します。
- ✓ 検討しにくい様子が見られたら、書き方のヒントを繰り返すなど、検討を促進させます。
- 整理できたでしょうか。
- では【ワーク3】に進みましょう。



### 【ワーク3】

取組を实施するために  
平常時にしておくことを検討しましょう

17

- 最後のワークです。
- 災害時に取組を实施するには、平常時の準備が不可欠です。
- 【ワーク3】では、【ワーク2】で書き出した「災害時の取組」を实施するために、平常時にしておくことを検討していただきます。

災害時に実現するための平常時の取組 (15分)

【ワーク2】で考えたそれぞれの取組を災害時に実施するために、平常時に何をすべきかを検討します。

**「だれが」「いつ」「何をどうするか」「だれと連携するとよいか」**について、具体的に検討しましょう。

※必ず自分が(メンバーの一人ひとりが)やることを検討してください!

※ワーク2でメモした「気づいたこと」も手掛かりになります。

※次ページの「平常時の備え」のチェック項目を参考にしてください。

例) 男女共同参画担当部局

その実現のために平常時に取り組むこと			
だれが	いつ	取組内容 (何をどうするか)	連携先
自分が	今週中に	この研修で学んだことを組織内で共有する	課長
啓発係が	年度内に	防災課と合同で男女共同参画の視点からの防災についての職員向け研修を実施する	防災課 (訓練担当)
●●係が	年度内に	連携したい部局や他団体をリストアップする	
●●係が	来年度に	連携したい部局と災害時の対応について協議	リストアップした部局

- ここでは、【ワーク2】で考えた、「目指したいゴール」に向けた「災害時の取組」を実現するために、平常時から何をしておくべきかについて検討していただきます。
- 「だれが」「いつ」「何をどうするとよいか」「だれと連携するとよいか」をについて、具体的に考えてください。
- まず、「自分が」(メンバーの一人ひとりが、またはメンバー同士で)必ずやることを検討してください。
- 【ワーク2】で書いた「気づいたこと」(工夫・配慮したいことや、困ること)なども手掛かりに、考えてください。
- 次のスライドにある、(※次のページ、スライド19を見せながら)セッション2で学んだ「平常時の取組」チェックリストの項目も参考にしてください。 ※次のスライドを見せて、再度、このスライドに戻る。
- ここでは、男女共同参画担当部局の場合を例に示しています。
- 災害時の取組を実現するためには、自分は、今週中に、この研修で学んだことを組織内で共有する。そのためには、課長に理解してもらおう と考え、記入されています。
- また、啓発係が、防災課と合同で男女共同参画の視点からの防災についての職員向け研修を、防災課の訓練担当者 と連携し実施する といった取組が検討されています。

## セッション3 「行動に移すための自組織の取組を検討する」

### <まず始めよう「平常時の取組」チェックリスト>

- 防災・危機管理担当部局には、女性職員が十分数いますか？
- 庁内職員に対して、ガイドラインを踏まえた防災研修・勉強会等を実施していますか？
- 防災研修・訓練は、防災・危機管理担当部局と男女共同参画部局・男女共同参画センターとが連携して実施していますか？
- 地方防災会議の女性委員の割合は3割以上を達成していますか？
- 地域防災計画に、男女共同参画担当部局やセンターの役割を位置づけていますか？
- 備蓄物資の準備に「備蓄チェックシート」を活用していますか？女性職員は参加していますか？
- 物資を供給するために協定締結や住民備蓄に取り組んでいますか？
- 自主防災組織における女性参画を進めていますか？
- 自治会長などの地域の有力者や各組織の長である男性に対して、女性の視点に立った防災について理解の促進を図っていますか？
- 女性消防団、婦人防火クラブ等の地域に根ざした組織や団体の長となる女性リーダーの育成を行っていますか？
- 女性リーダー同士の連携や情報共有の場を提供していますか？

19

- こちらは、これまで確認してきた、まず始めたい 「平常時の備え」 についてのチェックシートです。
- 平常時の取組を検討する際の参考にしてください。

## セッション3 「男女共同参画の視点から防災の取組を実践する」 (集合研修)

- 平常時に何をすべきかをグループで検討し、青色の付箋紙に書き出してください。
- 模造紙の右半分を使って整理してください。
- 模造紙が足りなくなったら追加してください。
- 検討時間:15分

模造紙(2枚目)の使用イメージ

ワーク2 災害時の取組				ワーク3 平常時の取組				グループ名●●	
だれが	いつ	取組内容	気づいたこと	だれが	いつ	取組内容	連携先		
				自分					

20

- 模造紙への整理方法について説明します。
- 平常時に何をすべきかをグループで検討し、青色の付箋紙に書き出してください。
- 図のように、【ワーク2】で使った模造紙の右半分を使って、「誰が」「いつ」「何をどうするか」「誰と連携するか」の欄を線を引いて作ってください。
- 付箋紙に書いた検討結果を、取組ごとに横に並べるように貼って、整理してください。
- 模造紙が足りなくなったら、新しい模造紙を追加してください。
- 検討時間は約15分です。
- この検討の後で、検討結果を全体で共有していきます。
- 自分の部署(課等)に戻り、部署のメンバーに対して、本日検討した取組についてプレゼンするイメージで発表していただきます。
- どの様に発表するのも考えながら、検討を進めてください。
- では、スタートしてください。リーダー、お願いします。

<検討 約15分>

- ✓ 受講者の検討の様子(はかどり具合)を見て、検討を終了します。
- ✓ 検討しにくい様子が見られたら、書き方のヒントを繰り返すなど、検討を促進させます。
- 整理できましたか。
- それでは、検討結果の共有に移ります。

**【共有】** (全体で20分)

検討した内容を**全体で共有**しましょう

**1グループ3分程度**

自部署(課等)に戻り、部署のメンバーに、本日検討した取組についてプレゼンするイメージで発表してください！

- 自部署(課等)の分野
- 検討事項「選んだ業務」の「目指したいゴールは何か」
- 災害時の取組
- 平常時の取組 (やるとどういった効果があるのかも)

21

- 検討おつかれさまでした。
- それぞれ検討した内容を全体で共有しましょう。
- 先ほども触れましたが、ここでは、自分の部署(課等)に戻り、部署のメンバーに、検討した取組についてプレゼンするイメージで発表していただきます。
- 部署のメンバーが、「なるほど!」「じゃあやってみようか」という気持ちになるように、発表して下さい。
- 発表の内容は、青枠の中を参考にしてください。
  - ・ 自部署(課等)の分野
  - ・ 検討事項(「選んだ業務」の「目指したいゴールは何か」について検討した)
  - ・ 災害時の取組
  - ・ 平常時の取組
- 特に、平常時の取組は、実施するとどういった効果があると考えているのかも、教えてください。
- 1グループ3分程度でお願いします。

<共有(発表)>

- ✓ 3分×4グループ程度。
- ✓ グループ数が多い場合は、できるだけ全部のグループが発表できるよう共有時間を多く確保するようにする。
- ✓ 講師から、発表内容について質問して、共有を深める。  
例) 平常時の取組を実行できそうですか? 実行するときに問題となることはありませんか?
- ✓ 受講者に対して、質問などがないか問いかける。  
例) 今の発表内容について、質問や意見などはありますか?

- ありがとうございます。
- 他の部署の意見を聞くと、新しい視点が得られたり、先ほどは思いつかなかった取組が思いついたりした方もいたのではないのでしょうか。
- 本ワークで得られた成果を、ぜひ、次のステップへとつなげ、活かしてください。

## まとめ

- 本日のワークで行った具体的な取組の検討方法を参考に、**自組織に戻って上司や同僚に今日の研修内容を共有し、更に詳細に検討していただくこと**を期待しています
- 大事な取組は**女性の参画、連携、育成・理解促進**です
- 検討していく中で迷ったら
  - ・「**ガイドライン**」を開いてみてください
  - ・「**平常時の取組チェックリスト**」も活用して、全体をチェックしましょう

22

- お疲れ様でした。
- 最後にセッション3のまとめです。
- 本日のワークで行った具体的な取組の検討方法を参考に、自組織に戻ってから、更に詳細に検討していただくことを期待しています。
- あらゆる防災・復興施策に男女共同参画の視点を入れることが不可欠です。
- そのために大事な取組は、女性の参画、連携、育成・理解促進です。
- 検討していく中で迷ったら「**ありたい災害対応の姿**」を確認して、「**ガイドライン**」を開いてみてください。
- 「**平常時の取組**」チェックリストも活用して、男女共同参画の視点が反映されているか、全体をチェックしましょう。
- みなさんがこの研修をきっかけに、次のステップに踏み出し、行動につなげていただくことを楽しみにしています。
- 以上でセッション3を終わります。